

## < 小児科 >

### A. 一般目標

小児科および小児科医の役割を理解し、小児医療を適切に行うために必要な知識・技能・態度を修得する。

- 1) 小児の特性を学ぶ。
- 2) 小児の診療の特性を学ぶ。
- 3) 小児期の疾患の特性を学ぶ。

### B. 行動目標、方法および評価

	行動目標	研修方法	評価方法
医療面接・指導 (特定の医療現場)	乳幼児に不安を与えないように、年齢に応じた対応ができる。	実習	観察
	小児ことに乳幼児とコミュニケーションがとれる。	実習	観察
	保護者から発病の状況、症状の経過、成長発達歴、既往歴、予防接種歴などを要領よく聴取し、的確な記載ができる。	実習	観察
	保護者に指導医とともに適切な病状説明と療養の指導ができる。	実習	観察
	虐待について説明できる	実習	観察
	母子健康手帳を理解し、活用できる	実習	観察
診察	小児の身体計測、検温、血圧測定ができる。	実習	実地試験
	発育、発達、生活状況などが年齢相当のものであるかどうかを判断できるようになる。	実習	観察
	小児の発達・発育に応じた特徴を理解できる。	実習・自習	口頭試問
	全身状態(動作・行動、顔色、元気さ、発熱の有無、食欲など)を観察し把握できる。	実習	観察
	全身状態をみて異常か正常か、緊急性の有無を把握して提示できるようになる。	実習	観察
	視診により栄養状態、発疹、呼吸状態、チアノーゼ、脱水症の有無を確認できる。	実習	観察
	発疹を観察して所見を記載できる。また頻度の高い発疹性疾患(麻疹、風疹、水痘、突発性発疹症、溶連菌感染症など)の特徴を理解し鑑別ができるようになる。	実習・自習・講義	口頭試問
	下痢病児では、便の性状(粘液便、水曜便、血便、膿性便など)、脱水症の有無を説明できる。	実習	口頭試問
	嘔吐や腹痛のある患児では重大な腹部所見の有無を指摘し病態を説明できる。	実習	口頭試問
	小児の意識障害の特徴を理解し指導医とともに対処ができる。	実習・講義	観察
	けいれんを診断できる。また髄膜刺激症状の有無、大泉門の張りの有無を調べることができる。	実習	観察
	胸部、腹部、頭頸部(とくに乳幼児の咽頭の視診、学童以上の小児の眼底所見)四肢の所見を的確に把握し正確な用語で記載できる。	実習	観察
小児疾患の理解に必要な症状と所見を正確に把握し理解するための基本的知識を修得し、主症状および緊急を要する状態に対処できる能力を身につける。	実習・自習・講義 カンファランス	観察・口頭試問	
基本的手技	A: 必ず経験すべき項目		
	・単独または指導者のもとで乳幼児を含む小児の採決、皮下注射ができる。	実習	実地試験
	・指導者のもとで新生児、乳幼児を含む小児の静脈注射・点滴静注ができる。	実習	実地試験
	・指導者のもとで輸液、輸血およびその管理ができる。	実習	観察
	・新生児の光線療法の必要性の判断およびその指示ができる。	実習	観察
	・新生児をのぞく一般小児の血管(静脈)確保ができる。	実習	実地試験
	・その意味や危険を理解したうえで、小児に静脈注射、筋肉注射、皮下注射ができる。	実習	実地試験

	B: 経験することが望ましい項目		
	・ 指導者のもとで導尿ができる。	実習	観察
	・ 浣腸ができる。	実習	観察
	・ 指導者のもとで、注腸・高圧浣腸ができる。	実習	観察
	・ 指導者のもとで、胃洗浄ができる。	実習	観察
	・ 指導者のもとで、腰椎穿刺ができる。	実習	観察
	・ 指導者のもとで、新生児の臍肉芽の処置ができる。	実習	観察
臨床検査	* 問診、理学的診察、臨床経過から考えうる病態・疾患の診断の確定、また重症度を評価するために必要な検査について、小児特有の検査結果を解釈できるようになる、または必要な検査を指示し専門家の意見に基づき解釈できるようになる。		
	・ 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）	実習・自習	口頭試問
	・ 便検査（潜血、虫卵検査）	実習・自習	口頭試問
	・ 血算・白血球分画（計算板の使用、白血球の形態的特長の観察）	実習・自習	口頭試問
	・ 血液型判定・交差適合試験	実習・自習	口頭試問
	・ 血液生化学検査（肝機能、腎機能、電解質、代謝を含む）	実習・自習	口頭試問
	・ 血清免疫学的検査（炎症マーカー、ウィルス・細菌の血清学的診断・ゲノム診断）	実習・自習	観察
	・ 細菌培養・感受性私権（臓器所見から起炎菌を推定し培養結果を解釈する）	実習・自習	観察
	・ 髄液検査（計算板による髄液細胞の算定を含む）	実習・自習	観察
	・ 心電図・心超音波検査	実習・自習	観察
	・ 脳波検査・頭部 CT スキャン・頭部 MRI 検査	実習・自習	観察
	・ 単純 X 線検査・造影 X 線検査	実習・自習	観察
	・ 頭部以外の CT スキャン・MRI 検査	実習・自習	観察
	・ 呼吸機能検査	実習・自習	観察
	・ シンチグラフィ（甲状腺・骨・腫瘍）	実習・自習	観察
・ 腹部超音波検査（腸重積の鑑別）	実習・自習	観察	
* 年齢・病態により検査時の鎮静の要否が判断できる。	実習・自習	観察	
薬物療法	* 小児に用いる薬剤の知識と使用法、小児薬用量の計算法を身につける。		
	・ 小児の体重別・体表面別の薬用量を理解し、それに基づいて一般薬剤（抗生物質を含む）の処方箋・指示書の作成ができる。	実習・自習・講義	観察
	・ 剤型の種類と使用法の理解ができ、処方箋・指示書の作成ができる。	実習・自習・講義	観察
	・ 乳幼児に対する薬剤の服用法、使用法について、看護師に指示し、保護者に説明できる。	実習・自習・講義	観察
	・ 基本的な薬剤の使用法を理解し、実際の処方ができる。	実習・自習・講義	観察
	・ 病児の年齢、疾患、病態などに応じて輸液の適応を確定し、種類と量を指示することができる。	実習・自習・講義	観察
成長発育・小児保健に関して修得すべき知識	・ 母乳、調整乳、離乳食の知識を学び指導ができる。	自習	観察
	・ 乳幼児の身長・体重増加の知識を学び、異常を発見できる。	自習・実習	観察
	・ 予防接種の種類と実施方法および副反応とその対処法を学ぶ。	自習・実習	観察
	・ 発育に伴う体液生理の変化と電解質、酸塩基平衡に関する知識を学ぶ。	自習・講義	口頭試問
	・ 神経発達の評価と異常の検出について学ぶ。	実習・自習・講義	観察

経験すべき一般症候	体重増加不良	実習・自習	口頭試問
	発達の遅れ	実習・自習	口頭試問
	発熱	実習・自習	口頭試問
	脱水、浮腫	実習・自習	口頭試問
	発疹、湿疹	実習・自習	口頭試問
	黄疸	実習・自習	口頭試問
	チアノーゼ	実習・自習	口頭試問
	貧血	実習・自習	口頭試問
	紫斑、出血傾向	実習・自習	口頭試問
	けいれん、意識障害	実習・自習	口頭試問
	頭痛	実習・自習	口頭試問
	耳痛	実習・自習	口頭試問
	咽頭痛、口腔内の痛み	実習・自習	口頭試問
	咳・喘鳴、呼吸困難	実習・自習	口頭試問
	頸部腫瘍、リンパ節腫脹	実習・自習	口頭試問
	鼻出血	実習・自習	口頭試問
	便秘、下痢、血便	実習・自習	口頭試問
	腹痛、嘔吐	実習・自習	口頭試問
	四肢の疼痛	実習・自習	口頭試問
	夜尿、頻尿	実習・自習	口頭試問
肥満、やせ	実習・自習	口頭試問	
低身長	実習・自習	口頭試問	
経験すべき頻度の高い、あるいは重要な疾患、特定の医療現場の経験	A:必ず経験すべき疾患、 B:経験することが望ましい疾患		
	a. 新生児疾患		
	1) 低出生体重児 (A)	母子医療の <sup>1)</sup> 実習	
	2) 新生児黄疸 (A)		
	3) 呼吸窮迫症候群 (B)		
	4) MAS (胎便吸引)(B)		
	b. 乳児疾患		
	1) おむつかぶれ (A)	実習	口頭試問
	2) 乳児湿疹 (A)	実習	口頭試問
	3) 染色体異常症 (Down 症候群) (B)	実習	観察
	4) 乳児下痢症、白色便性下痢症 (A)	実習	口頭試問
	c. 感染症		
	発疹性ウイルス感染症 (いずれかを 経験する)(A) 麻疹、風疹、水痘、突発性発疹、 伝染性紅斑 手足口病	実習・自習	口頭試問
	1) その他のウイルス性疾患 2) (いずれかを経験する)(A) 流行性耳下腺炎、ヘルパンギーナ、 インフルエンザ	実習・自習	口頭試問
	3) 発疹性細菌感染症 (いずれかを経験する)(A) 溶連菌感染症、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群、伝染性膿痂疹 (とびひ)	実習・自習	口頭試問
	4) 細菌性胃腸炎 (B)	実習	観察
	5) 急性扁桃炎、気管支炎、細気管支炎、肺炎仮性ク룹 (A)	実習・自習	口頭試問
	d. アレルギー疾患		
	1) 小児気管支喘息 (A)	実習・自習	口頭試問
	2) アトピー性皮膚炎 (A)	実習・自習	口頭試問

	3) 食物アレルギー (B)	実習	観察
	<b>e. 神経疾患</b>		
	1) てんかん (A)	実習・自習	口頭試問
	2) 熱性けいれん (A)	実習・自習	口頭試問
	3) 細菌性髄膜炎、脳炎・脳症 (B)	実習	観察
	<b>f. 腎疾患</b>		
	1) 尿路感染症 (A)	実習・自習	口頭試問
	2) ネフローゼ症候群 (B)	実習	観察
	3) 急性腎炎、慢性腎炎 (B)	実習	観察
	<b>g. 先天性心疾患</b>		
	1) 心不全 (B)	実習	観察
	2) 先天性心疾患 (心室中隔欠損)(B)	実習	観察
	<b>h. 膠原病</b>		
	1) 若年性関節リウマチ、SLE (B)	実習	観察
	2) 川崎病 (A)	実習・自習	口頭試問
	<b>i. 血液・悪性腫瘍</b>		
	1) 貧血 (A)	実習・自習	口頭試問
	2) 小児癌、白血病 (B)	実習	観察
	3) 血小板減少症、紫斑病 (B)	実習	観察
	<b>j. 内分泌・代謝疾患</b>		
	1) 糖尿病 (B)	実習	観察
	2) 甲状腺機能低下症 (クレチン病)(B)	実習	観察
	3) 低身長、肥満 (A)	実習・自習	口頭試問
	<b>k. 発達障害・心身医学</b>		
	1) 精神運動発達遅滞、言葉の送れ (B)	実習	観察
	2) 学習障害・注意欠損多動障害 (B)	実習	観察
小児の救急医療	小児に多い救急疾患の基本的知識と対処に必要な手技を身につける。		
	A: 必ず経験すべき疾患		
	B: 経験することが望ましい疾患		
	C: 機会があれば経験すべき疾患		
	・脱水症の程度を判断でき、応急処置ができる。(A)	実習	観察
	・喘息発作の重症度を判断でき、中等症以下の病児の応急処置ができる。(A)	実習	観察
	・けいれんの鑑別診断ができ、けいれん状態に対して応急処置ができる。(A)	実習	観察
	・腸重積症を正しく診断して適切な対応がとれる。(B)	実習	観察
	・腹痛、嘔吐などの消化器症状の強い病児について腹部所見を正しく把握し、緊急性のある疾患(虫垂炎など)を指摘し、外科へのコンサルテーションができる。(B)	実習	観察
	・気道確保、バッグ&マスクによる人工呼吸、胸骨圧迫式心マッサージ、静脈・動脈ライン確保など一連の蘇生術を行える。(B)	実習	観察
	* その他の重要な小児救急疾患の基本的知識と対処に必要な手技を身につける。		
	・心不全 (B)	実習	観察
	・脳炎・脳症、髄膜炎 (B)	実習	観察
	・急性喉頭炎、クループ症候群 (B)	実習	観察
	・アナフィラキシー・ショック (B)	実習	観察
	・急性腎不全 (C)	実習	観察
	・消化管および気道異物 (B)	実習	観察
	・ネグレクト、被虐待児 (B)	実習	観察
・来院時心肺停止症例 (CPA) SIDS (C)	実習	観察	
・事故(溺水、転落、中毒、熱傷など)(A)	実習	観察	

< 小児科 > 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:00-8:30	採血	採血	NICU 朝の抄読会	採血	採血
8:30-9:00	朝のカフェ 新入院患者 プレゼンテーション 本日の研修予定 確認	朝のカフェ 新入院患者 プレゼンテーション 本日の研修予定 確認	朝のカフェ 新入院患者 プレゼンテーション 本日の研修予定 確認	朝のカフェ 新入院患者 プレゼンテーション 本日の研修予定 確認	朝のカフェ 新入院患者 プレゼンテーション 本日の研修予定 確認
9:00-13:00	担当医回診同行	外来見学 外来患者診察・ 処置	担当医回診同行	担当医回診同行	外来見学 外来患者診察・ 処置
13:00-14:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
14:00-17:30	隔週で A,B を 交互に研修 A. 予防接種外来 B. 救急外来  終了後、 病棟処置・回診	乳児外来見学 終了後、 病棟患者回診 週間定例カフェ の準備・自習	隔週で A,B を 交互に研修 A. 予防接種外来 (海外渡航者向) B. 心エコー検査 見学  終了後、 病棟処置・回診	救急外来研修ま たはアレルギー-専門 外来の見学	救急外来研修 または 循環器専門外来 および NICU フォロ-アップ 外来の見学
17:30-18:00	NICU 夕のカフェ	NICU 夕のカフェ	NICU 夕のカフェ	NICU 夕のカフェ	NICU 夕のカフェ
18:00-		週間定例 カフェ 隔週で抄読会			NICU・産科 ジョイントカフェ